

8 クモ類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

1. 三重県のクモ相の概要

三重県は南北に細長く、海岸から1,695 mの日出ヶ岳を最高点とする台高山脈をはじめ、鈴鹿山脈などの山地を持ち、また、それぞれの山地を源とする宮川や鈴鹿川等の河川が流下している。このような多様な地理的環境に恵まれているため、クモ相は豊富である。その中にはナカムラオニグモのように分布を南限とする種やホシヒメグモモドキのように分布を北限とする種もいくつか見られる。

県内のクモ類については、1930年代に個人による目録作成のための採集調査が始められており、1972年に「三重クモ談話会」が設立されたことにより、本格的な分布調査が行われるようになった。2003年には「三重県産クモ類目録」が出版され、44科510種が報告された。その成果に基づき、「三重県レッドデータブック2005（以下RDB2005とする）」のクモ類が作成された。以後およそ10年が経過する中で、「三重クモ談話会」の定期調査や市町史編纂のための調査などの様々な調査研究が行われ、これまで記録されていた種の新たな生息地の確認や、三重県初記録種の確認がなされた。その結果、今回の改訂時には534種を記録するに至り、その中には、オオミヤナミハグモのように県内から得られた標本から新種記載された種もいくつかある。

2. 調査内容と結果

今回のレッドリストの改訂にあたり、調査対象種を選定するために、前回掲載した種に加え、その後新たに生息が確認された種を含めたその他の種についても、次の3つの観点から検討を行った。

1. 生息環境が極めて限定されており、その生息環境がなくなれば即絶滅につながる恐れのある大きい種。例：シュウレイホラヒメグモ、チビクロドヨウグモなど。
2. 分布域は比較的広いが、生息に適した環境が限られており、その環境がなくなれば絶滅するおそれの強い種。例：キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモなど。
3. 以前は身近でよく目にすることができたが、近年観察される機会が著しく減少している種。例：オニグモ、コガネグモなど。

その結果、RDB2005に掲載されている37種を調査対象とした。

これらの種について、2012年、2013年の2年間にわたり、既生息地における再確認をするとともに、新たな生息地の発見を念頭において計画的に現地調査を行った。並行して既存文献および個人所蔵の標本データ（未発表も含む）を調査し、現況を把握するように努めた。

この調査を通して、シュウレイホラヒメグモやチビクロドヨウグモなどについては、既知の産地で再確認でき、ドウシグモ、キヌアミグモ、サンロウドヨウグモなどのように、新たな生息地を発見することができた種もあった。一方で、カネコトタテグモなど既知の産地で再確認できなかった種もあった。

3. 絶滅危惧種の概要

レッドリストの作成にあたっては、上記の調査結果をもとに、三重県が用意したチェックシートによるそれぞれの種の判定を行い、専門委員で協議し最終的な評価を行った。

その結果、前回ENにランク付けしていたシュウレイホラヒメグモについては、既知の生息地が特定の洞窟に限られており、その環境がなくなれば即絶滅につながることから、CRにランクを上げた。ツユグモについては、既知の生息地は1か所であり、その後の調査でも再発見に至っておらず、CRにランクを上げた。前回ENにランク付けされていたキヌアミグモは、南方系の種であり、分布も県南部に限られているが、生息地内で安定して確認されていることにより、VUにランクを下げた。前回VUにランク付けされていたワスレナグモ、イサゴコモリグモ、シノビグモについては、新たな生息地も確認され、絶滅の恐れが低下したと判断し、NTにランクを下げた。

クモ類は様々な環境に生息しているが、種毎の環境への依存度が高いため、環境変化の影響を受けやすい。そのため、今後、多様な環境に生息するクモ類の生態の調査研究を進めるとともに、県内の未調査地域の調査を進め、県内のクモ相のより詳しい状況把握に努める必要がある。

なお、分類は日本クモ類目録（2013年版：谷川）に準拠した。

（橋本 理市）

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

除外種

「三重県レッドデータブック2005 動物」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念（LC）と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

(表8-1) 改訂により低懸念（LC）となった種

| No. | 科名 | 和名 | 改訂前 県ランク | 除外理由 |
|-----|--------|---------|-------------|----------------------|
| 1 | コガネグモ | スズミグモ | NT | 調査が進み、新たな産地が増えたため。 |
| 2 | コガネグモ | ドヨウオニグモ | NT | 県内各地に分布し、採集記録が増えたため。 |
| 3 | アシダカグモ | カマズグモ | NT | 調査が進み、採集記録が増えたため。 |
| 4 | コガネグモ | マルゴミグモ | DD | 調査が進み、採集記録が増えたため。 |

(表8-2) 改訂において評価の対象から除外した種

| No. | 科名 | 和名 | 改訂前 県ランク | 除外理由 |
|-----|-------|--------------|-------------|------------------|
| 1 | コガネグモ | マメイタイセキグモ | DD | 稀産種と考えられるため。 |
| 2 | コガネグモ | ムツトゲイセキグモ | DD | 稀産種と考えられるため。 |
| 3 | コガネグモ | サカグチトリノフンダマシ | DD | 稀産種と考えられるため。 |
| 4 | コガネグモ | ツシマトリノフンダマシ | DD | 稀産種と考えられるため。 |
| 5 | コモリグモ | ミナミコモリグモ | DD | すべて誤同定の可能性が高いため。 |
| 6 | カニグモ | カトウツケオグモ | DD | 稀産種と考えられるため。 |

クモ類レッドリスト

絶滅危惧IA類（CR）

| 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|--------|-------------|-----------------------------|-----|------|
| ホラヒメグモ | シュウレイホラヒメグモ | <i>Nesticus shureiensis</i> | | 284 |
| アシダカグモ | ツクグモ | <i>Micrommata virescens</i> | | 284 |

絶滅危惧IB類（EN）

| 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|--------|------------|-------------------------|-----|------|
| トタテグモ | キシノウエトタテグモ | <i>Latouchia typica</i> | NT | 284 |
| ホラヒメグモ | スズカホラヒメグモ | <i>Nesticus suzuka</i> | | 285 |

絶滅危惧II類（VU）

| 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|----------|-----------|---------------------------------|-----|------|
| カネコトタテグモ | カネコトタテグモ | <i>Antrodiaetus roretzi</i> | NT | 285 |
| ハウシグモ | ドウシグモ | <i>Asceua japonica</i> | DD | 285 |
| ホラヒメグモ | ヤマトホラヒメグモ | <i>Nesticus yamato</i> | | 286 |
| アシナガグモ | チビクロドヨウグモ | <i>Meta nigridorsalis</i> | | 286 |
| コガネグモ | キヌアミグモ | <i>Cyrtophora exanthematica</i> | | 286 |
| コガネグモ | トゲグモ | <i>Gasteracantha kuhli</i> | | 287 |

準絶滅危惧（NT）

| 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|--------|------------|-----------------------------|-----|------|
| ジグモ | ワスレナグモ | <i>Calommata signata</i> | NT | 287 |
| トタテグモ | キノボリトタテグモ | <i>Conothele fragaria</i> | NT | 287 |
| ユウレイグモ | アケボノユウレイグモ | <i>Belisana akebona</i> | | 288 |
| サシアシグモ | シノビグモ | <i>Shinobius orientalis</i> | | 288 |
| コモリグモ | イサゴコモリグモ | <i>Pardosa isago</i> | | 288 |
| ササグモ | シマササグモ | <i>Oxyopes macilentus</i> | | 289 |
| アシナガグモ | サンロードヨウグモ | <i>Meta japonica</i> | | 289 |
| コガネグモ | オニグモ | <i>Araneus ventricosus</i> | | 289 |
| コガネグモ | コガネグモ | <i>Argiope amoena</i> | | 290 |
| アワセグモ | アワセグモ | <i>Selenops bursarius</i> | | 290 |
| カニグモ | アシナガカニグモ | <i>Heriaeus mellotei</i> | | 290 |

情報不足 (DD)

| 科名 | 和名 | 学名 | 環境省 | 掲載P. |
|-------|-----------|---------------------------------|-----|------|
| コモリグモ | カワベコモリグモ | <i>Arctosa kawabe</i> | | 291 |
| ヒメグモ | ホシヒメグモモドキ | <i>Theridula gonygaster</i> | | 291 |
| コガネグモ | キジロオヒキグモ | <i>Arachnura logio</i> | | 291 |
| コガネグモ | ニシキオニグモ | <i>Araneus variegatus</i> | | 291 |
| イツツグモ | ナガイツツグモ | <i>Anyphaena ayshides</i> | | 291 |
| ネコグモ | オビジガバチグモ | <i>Castianeira shaxianensis</i> | | 291 |

クモ類レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載されたクモ類レッドリスト（改訂後のカテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載したクモ類（改訂前のカテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。

| | | 改訂前のカテゴリー | | | | | 種数 |
|-----------|------|-----------|----|-----------------------------|--|---|---|
| | | EX | CR | EN | VU | NT | |
| 改訂後のカテゴリー | EX | | | | | | 0 |
| | CR | | | シュウレイホラヒメグモ ツユグモ | | | 2 |
| | EN | | | キシノウエトタテグモ スズカホラヒメグモ | | | 2 |
| | VU | | | キヌアミグモ | カネコトタテグモ ドウシグモ ヤマトホラヒメグモ チビクロドヨウグモ トゲグモ | | 6 |
| | NT | | | ワスレナグモ シノビグモ イサゴコモリグモ | キノボリトタテグモ アケボノユウレイグモ シマササグモ サンロウドヨウグモ オニグモ コガネグモ アワセグモ アシナガカニグモ | | 11 |
| | DD | | | | | カワベコモリグモ ホシヒメグモモドキ キジロオヒキグモ ニシキオニグモ ナガイツツグモ オビジガバチグモ | 6 |
| | リスト外 | | | | | スズミグモ ドヨウオニグモ カマスグモ | マルゴミグモ マメイタイセキグモ ムツトゲイセキグモ サカグチトリノフンダマシ ツシマトリノフンダマシ ミナミコモリグモ カトウツケオグモ |
| 種数 | 0 | 0 | 5 | 8 | 11 | 13 | |

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

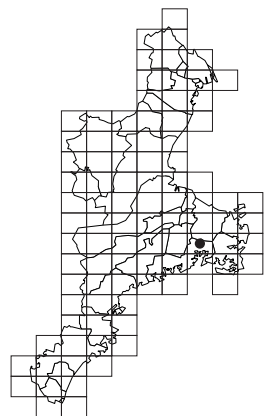
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シュウレイホラヒメグモ クモ目ホラヒメグモ科
Nesticus shureiensis Yaginuma, 1980

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)
旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は1である。特殊な環境（洞窟）に生息する。既知1地点以外から未だ記録がない。
種の概要： 体長は雌5.7 mm, 雄4.3 mm前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。
分布： 本州(三重)。伊勢市鷲嶺の水穴からのみ確認されている。
現況・減少要因： 2003年12月に実施した鷲嶺の水穴の調査でも、洞内中央部の岩棚の下や窪み、小穴などに造網しているのが確認された。洞内の環境の悪化が、直接生息に影響を与える。2012年調査において生息が確認されている。伊勢館町でも記録されているが、幼体のため検討対象から除外した。
保護対策： 周辺環境の現状維持（クモは捕食性のため餌となる小昆虫等の生息が絶対条件となる）とともにたき火や松明などの火気による煙害等の洞内環境の悪化を防止する。また、周辺の洞窟群の調査が急がれる。
特記事項： 鷲嶺の水穴を模式産地として新種記載された。
文献： 8. 20. 69. 77. 116. 117.



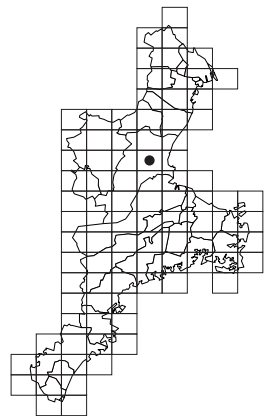
(熊田憲一)

ツググモ クモ目アシダカグモ科
Micrommata virescens (Clerck, 1757)

三重県：絶滅危惧IA類 (CR)
旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は1である。多様な環境を調査したが新たな情報が得られないため、絶滅の可能性が高まっているとしてCRにランクを上げた。
種の概要： 体長雌12~15 mm, 雄8~10 mm。全体黄緑色をしており、冬期は落葉中、夏期は草間・樹上を徘徊し、産卵期には、ススキなどの葉を巻いて住居を作り、その中に卵のうを作る。本州では1,000 m以上の高地に多くみられ、平地では稀である。
分布： 北海道、本州(高地)、四国(高地)、九州(高地)に見られる。県内では、津市で一度記録がある。
現況・減少要因： 津市片田志袋町の平地での記録である(1974年6月9日)。本州南部における平地の生息記録はきわめて少なく注目に値する。雑木林の生息環境が土地開発により変化したため、その後は確認されていない。
保護対策： 環境条件から考えると県内高地には生息している可能性があり、さらに調査が必要である。生息が確認できた場合は里山から山地に至る雑木林や草原の保持を行い、環境の保全を図る。
文献： 15.



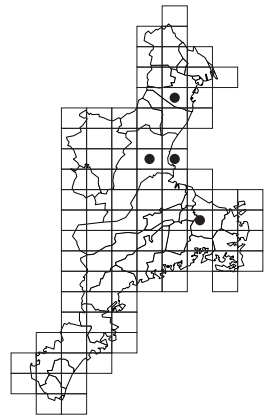
(貝發憲治)

キシノウエトタテグモ クモ目トタテグモ科
Latouchia typica (Kishida, 1913)

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)
旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境に生息する。
種の概要： 体長雌12~20 mm, 雄10~15 mm。全体紫褐色で腹部背面は7対の白黄斑が左右斜め後方に走る。地中に5~7 cm程度の横穴を掘り、入口に片開きの扉をつけた住居を作る。都市部の比較的明るい場所に多い。
分布： 本州南部、四国、九州に分布する。北限は山形県。県内では、四日市市、津市、伊勢市で記録されている。
現況・減少要因： 伊勢神宮外宮、内宮の道路脇の石垣や四日市市川島町、津市久居東鷹跡町、津市の偕楽公園の崖地等、市街地に生息している地中性のクモである。土壌の乾燥化、崖地の工事や道路改修による破壊、コンクリート補強等の影響を受けて激減しやすく、都市化が進むことにより減少の可能性もある。
保護対策： 地中に横穴を掘って住居を作るため、現在の生息環境を保持する。また、殺虫剤等の散布には注意を払う必要がある。
文献： 11. 32. 37. 44. 45. 51. 77.



(貝發憲治)

スズカホラヒメグモ

クモ目ホラヒメグモ科

三重県：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省：

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Nesticus suzuka Yaginuma, 1979

選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境（洞窟）に生息する。

種の概要： 体長は雌5.6 mm, 雄5.3 mm前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。

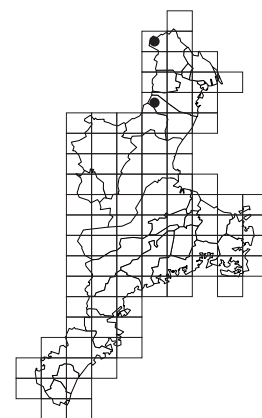
分布： 本州（三重・滋賀・岐阜）。三重県から岐阜県にかけての石灰鍾乳洞群に限定的に分布する。県内ではいなべ市藤原町と鈴鹿市の鈴鹿山地にある鍾乳洞から確認されている。

現況・減少要因： 2か所の鍾乳洞からは安定的に確認されている。石大神の風穴（鈴鹿市）からの記録もあるが、石灰石採掘のため洞穴が消失した。洞窟の破壊や洞内環境の悪化による消滅、減少が考えられる。

保護対策： 石灰石採掘等による鍾乳洞などの破壊防止や周辺環境の保護、洞内環境の保全を行う。

特記事項： 篠立の風穴（いなべ市）を模式産地として新種記載された。

文献： 2, 40, 52, 80, 93, 117.



(熊田憲一)

カネコトタテグモ

クモ目カネコトタテグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：NT

Antrodiaetus roretzi (L.Koch, 1878)

選定理由： 既知の生息地点数が10を超えたが、点状的分布である。特殊な環境に生息する。

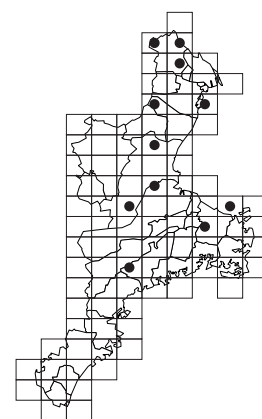
種の概要： 体長は雌12~18 mm, 雄10~13 mm。崖地や林床に穴を掘って住居をつくる。入口には両開きの扉をつける。夜間の捕食時以外は扉は閉まっており、その状態では周囲との区別がつきにくく、発見は難しい。

分布： 本州（東北から近畿）。県内ではいなべ市から大紀町にかけて記録されている。平地から山地まで分布するが、確認地点は少ない。

現況・減少要因： 林縁や林道沿いのあまり日の当たらない小規模な崖地や神社の境内などで確認されている。開発等による生息地の破壊とともに、地中に住居を作る特殊性から、森林伐採による林床の乾燥化の強い影響を受ける。

保護対策： 生息状況が特殊なため確認は難しいが、生息域の解明が必要である。生息地の保全として、広範な伐採や必要以上の崖地のコンクリート化を防止する。

文献： 15, 45, 67, 93, 99, 103, 107, 118.



(熊田憲一)

ドウシグモ

クモ目ホウシグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：DD

Asceua japonica (Bösenberg & Strand, 1906)

選定理由： 既知の生息地点数は5以下であり、個体数も少ない。

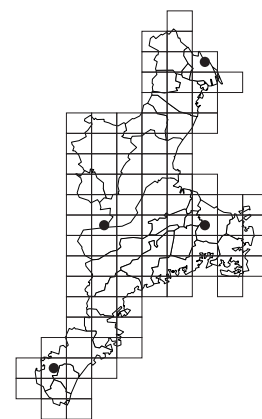
種の概要： 体長雌雄3~4 mmの徘徊性のクモで、カシ、サクラ、クスなどの樹皮上や、神社、寺院の石灯籠からも採集される。老木の樹皮下に袋状の住居をつくる。

分布： 本州、四国、九州に分布する日本固有種。県内では、桑名市、津市、伊勢市、熊野市からの記録がある。

現況・減少要因： 今回の調査で伊勢神宮域で採集された。減少要因としては、老木の減少が考えられる。

保護対策： 生息環境に配慮した計画的な伐採と植樹が必要である。また、生活史の研究も必要である。

文献： 3, 6, 42, 45.



(太田定浩)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトホラヒメグモ

クモ目ホラヒメグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Nesticus yamato Yaginuma, 1979

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境（洞窟）に生息する。

種の概要： 体長は雌4.9 mm, 雄4.8 mm前後。腹部は球形で、赤褐色、褐色の斑紋がある。洞窟内の隙間や岩陰に不規則網を張る。洞窟外でも暗い溪流の大岩の隙間など類似環境からごく稀に記録される。

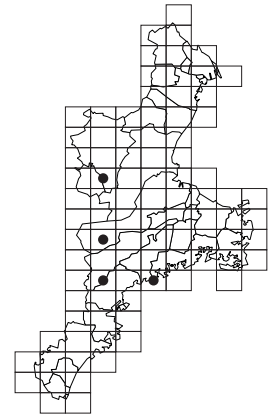
分布： 三重・奈良・和歌山各県の石灰鍾乳洞群に限定的に分布する。県内では、大台町宮川と大紀町大宮の鍾乳洞と名張市の洞窟から確認されているほか、津市美杉町の溪谷から生息が確認されている。

現況・減少要因： 生息が確認されている鍾乳洞では、現在も安定的に確認されている。洞窟の破壊や洞内環境の悪化が減少要因となる。

保護対策： 生息地の鍾乳洞の保全とともに、洞穴以外の環境下での生息状況調査が必要である。

特記事項： ホラヒメグモ類は3種記録されている。形態および斑紋は非常に似ているが、各洞窟群で種の分化が進んでいる。

文献： 24. 26. 40. 69. 117.



(熊田憲一)

チビクロドヨウグモ

クモ目アシナガグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Meta nigridorsalis Tanikawa, 1994

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境に生息する。

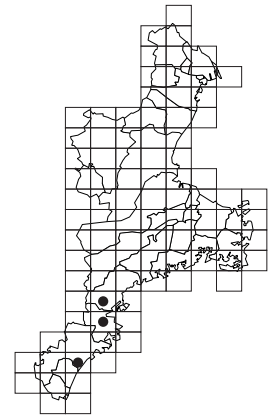
種の概要： 体長は雌5.0~6.6 mm, 雄4.5~5.0 mm. 直接日の当たらない林内の、比較的大きな岩の隙間などに造網している好暗性種。

分布： 本州（三重県・和歌山県・広島県）、九州（熊本県）。県内では熊野市と尾鷲市の2か所から記録がある。

現況・減少要因： 1993年に発見された熊野市井戸町の模式産地は、1998年に道路の拡張整備で消失し、周辺の調査でも生息は確認されていない。2003年に確認された尾鷲市の生息地は、段丘の林内にある石組みである。20 cmほどの網を張るため、ある程度広い空間を必要とする。類似環境として洞窟があるが、県内の洞窟からの記録はない。石垣の改修や周囲の林の伐採等、生息環境の変化が減少の要因となる。2012年に尾鷲市での生息は確認されたが、新たな生息地点は出ていない。

保護対策： 生息状況の把握が急務である。生息地および周辺環境の保全をはかる。

文献： 39. 109.



(熊田憲一)

キヌアミグモ

クモ目コガネグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Cyrtophora exanthematica (Doleschall, 1859)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、記録個体数も少ない。分布も限られているが、生息地においては継続して観察できており、今回VUにランクを下げた。

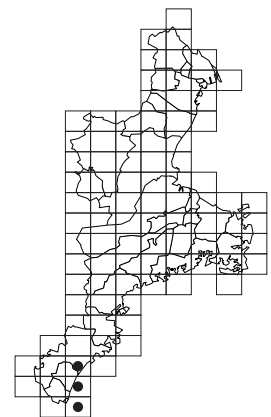
種の概要： 体長、雌9~11 mm, 雄3~4 mm. 日当たりのよい樹間に、網目が方形をしたシート状の網（絹網）を水平に張る。

分布： 南方系のクモで本州（静岡県以南）から九州、南西諸島。県内では、熊野市、御浜町、紀宝町など主に紀南地方のみで記録されている。山裾の柑橘類の畑やその周辺に生息していることが多い。

現況・減少要因： 記録個体数も少なく、減少要因については特定できていない。耕作放棄された柑橘類の畑で観察されることが多く、農薬の散布等がその減少に影響している可能性もある。

保護対策： 減少要因が十分に解明されていないため、具体的な保護対策は明らかでないが、減農薬等の取り組みが必要と考えられる。また、生活史を含めた生態調査が必要である。

文献： 42. 59. 65. 77. 97. 101.



(塩崎哲哉)

トゲグモ

クモ目コガネグモ科

三重県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：

Gasteracantha kuhli C.L.Koch, 1837

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、記録個体数が少ない。

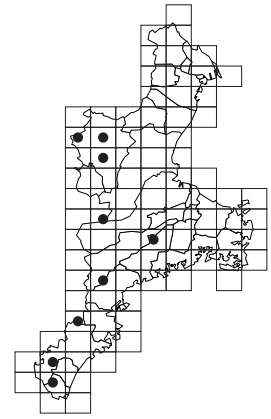
種の概要： 雌7~8 mm, 雄3~4 mm. 腹部はキチン化して硬く、3対の黒色の棘を持っている。背面は白色で黒色の斑紋を持つ。山地林内の樹間の比較的高いところに垂直円網を張る。

分布： 本州(岩手県)から九州。県内では津市美杉町、伊賀市、大台町宮川、熊野市・紀和町などで記録されている。

現況・減少要因： 山間部の林内に局地的に生息しているが、採集観察例は少ない。既知の生息地において、林道改修のあと観察されなくなっていたが、今回の調査で再確認することができた。

保護対策： 生息環境を保護することが重要である。森林伐採等においても皆伐を避ける等、環境の急激な改変を回避する工夫が必要である。

文献： 3. 4. 8. 14. 48. 96.



(塩崎哲哉)

ワスレナグモ

クモ目ジグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Calommata signata Karsh, 1879

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数が10を超えたため、NTにランクを下げた。特殊な環境に生息する。

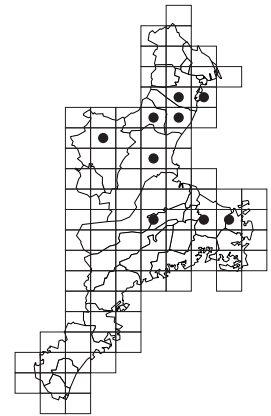
種の概要： 体長は雌15~18 mm, 雄6~8 mm. 建物の土台付近や草地等の、主に平らな土地の地中に穴を掘って住居をつくる。入口に扉はなく、内膜の糸を使って巢口をふさぐ。夜間、巢口に顔を出して近づく虫などを捕食する。

分布： 本州東北以南、四国、九州。県内では四日市市、伊賀市、伊勢市、亀山市などから記録されている。分布域は広いが、確認されることはまれである。山里から市街地にかけて見られる。

現況・減少要因： 神社や城址など、比較的土壌の安定した場所から確認されている。地中に住居を作る特殊性から、建物周辺の地面のコンクリート化や草地などの薬剤散布が強く影響する。

保護対策： 生息が確認されている場所の環境保全、除草剤や殺虫剤散布の軽減が必要である。

文献： 1. 46. 50. 51. 98. 112.



(熊田憲一)

キノボリトタテグモ

クモ目トタテグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Conothele fragaria (Döntiz, 1887)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 県内各地から記録されているが、社寺林等限られた環境にのみ生息する。

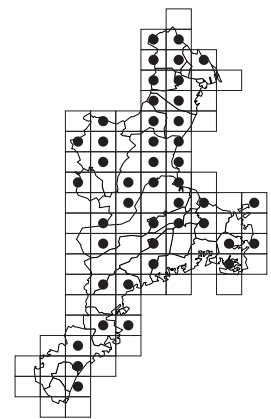
種の概要： 体長は雌10~11 mm, 雄6~8 mm. 全体黒色。日光の直射しないところの岩上や、クス、マツ、スギなどの樹皮上に片開き戸の住居をつくる。

分布： 本州(東北地方を除く)、四国、九州、南西諸島。県内では四日市市、伊賀市、松阪市、伊勢市、尾鷲市、熊野市等から広域的に記録がある。

現況・減少要因： 社寺境内の古木に営巣することが多いが、周辺の宅地化や道路建設等により、生息環境が失われつつある。

保護対策： 開発の際には社寺林を避けることが重要である。また、大気汚染を抑制することも本種を保護する最小限の対策であろう。

文献： 8. 9. 11. 15. 19. 24. 25. 30. 33. 38. 42. 44. 45. 47. 51. 56. 57. 58. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 72. 75. 82. 84. 90. 91. 92. 93. 94. 97. 101. 102. 106. 107. 110.



(武藤茂忠)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

アケボノユレイグモ

クモ目ユレイグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Belisana akebona Komatsu, 1961

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は10を超えたが、限定された環境条件下に生息する。

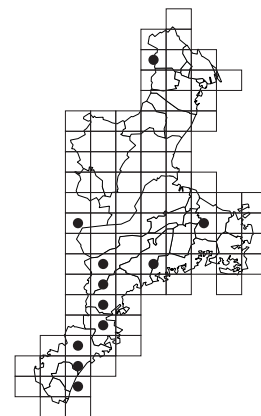
種の概要： 体長は雌2.3~2.5 mm, 雄2.0~2.2 mm. 溪流の岩陰や洞窟内の比較的湿った環境に造網する。比較的広範囲に分布しているが、生息環境が限られている。

分布： 本州および九州。県内ではいなべ市大安町, 松阪市飯高町, 大台町宮川, 大紀町紀勢・大宮, 紀北町海山区, 尾鷲市, 熊野市から記録されている。山地の溪流や洞窟内に分布するが、確認数は少ない。

現況・減少要因： 山地の溪谷部に広く分布している。また、大台町宮川, 大紀町大宮の洞窟内からも記録されている。森林伐採等で日当たりがよくなるなどの乾燥化に弱く、環境が大きく変わることが減少の要因になる。

保護対策： 溪谷上流部の開発や森林伐採、特に皆伐による生息域の過乾燥を防止する。洞窟内の環境を保全する。

文献： 9. 14. 42. 45. 64. 86. 101. 105.



(熊田憲一)

シノビグモ

クモ目サシアシグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Shinobius orientalis (Yaginuma, 1967)

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点が増えているため今回NTにランクを下げた。

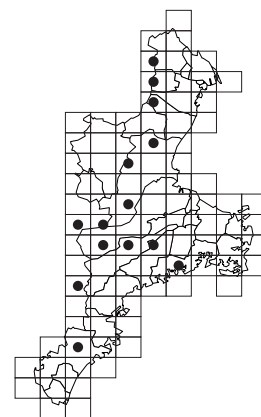
種の概要： 1科1属1種。体長雌雄とも6~8 mmで、黄褐色で腹背に特有の白斑がある。山間の源流付近の限定された環境に生息し、直射日光の当たらない湿気の多い下草や石間に潜み、水際を徘徊する。

分布： 北海道, 本州, 四国の限定された地域から記録されている。県内では、いなべ市, 津市, 伊賀市, 大台町, 熊野市など18か所で記録されている。

現況・減少要因： 生息環境が極めて限定された山地の溪流周辺で見られる。山間地のため人の手は入りにくい。河川工事, 樹木の伐採等で日光が差し込んだり土壌が乾燥するなど、環境が大きく変化したところがある。少しの環境変化で絶滅する恐れがある。

保護対策： 継続調査で確認された生息地点数が増えているが、山地の源流地域での自然環境の保護が大切で、治水・河川工事, ダム建設, 樹木の伐採等に配慮が必要である。

文献： 6. 23. 24. 25. 30. 36. 42. 44. 54. 56. 63. 68. 69. 89. 101. 105.



(前原 晋)

イサゴコモリグモ

クモ目コモリグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Pardosa isago Tanaka, 1977

旧県：絶滅危惧II類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であるが、各地の河川から発見されてきており、NTにランクを下げた。

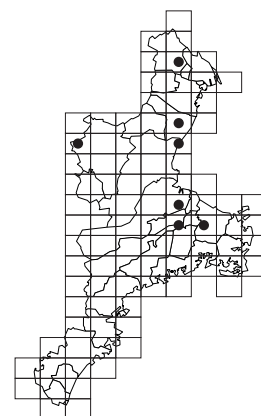
種の概要： 体長は雌6 mm, 雄5 mm. 背甲は黄褐色で金色毛がある。川原や溪流の岸辺, 海岸などに多く生息し、乾いた川原の石の間を敏捷に走り回る。

分布： 本州, 四国, 九州。県内ではいなべ市北勢町, 鈴鹿市, 津市河芸町, 松阪市, 多気町, 度会町, 伊勢市, 伊賀市上野で記録がある。

現況・減少要因： 増水, 氾濫や河川改修工事などで変わりやすい環境に生息していることが、同一地点での生存を不安定にしていると考えられる。

保護対策： 治水事業としての河川改修, 浚渫等は不可避であろうが、極力部分的・段階的改修とし、河川や海岸線を自然に近い形で残すことが必要である。

文献： 7. 30. 31. 37. 76. 111.



(武藤茂忠)

シマササグモ

クモ目ササグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Oxyopes macilentus L.Koch, 1878

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、記録個体数も少ない。

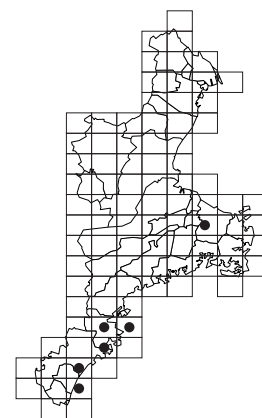
種の概要： 雌9~13 mm, 雄8~10 mm. 南方系のクモで草間などを徘徊している。

分布： 本州（紀伊半島）、四国、九州のおもに太平洋岸および南西諸島で記録されている。県内での記録は少なく伊勢市、尾鷲市、熊野市、御浜町など県南部での記録が多い。三重県が分布の北限である。

現況・減少要因： 記録個体数が少なく、減少要因については特定できない。分布の北限にあたることもあり、もともと少ないことも考えられる。

保護対策： 生息環境の保全とともに、生活史を含めた生態調査や分布状況の調査が必要である。

文献： 3. 9. 65. 69. 101.



(塩崎哲哉)

サンロウドヨウグモ

クモ目アシナガグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Meta japonica Tanikawa, 1993

選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。特殊な環境に生息する。

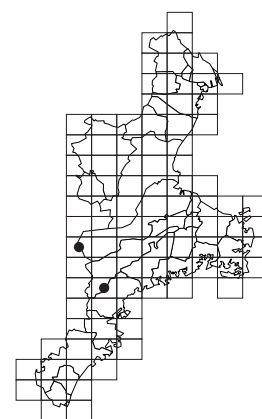
種の概要： 体長は雌12~14 mm, 雄9~11 mm. 洞窟内などの暗所に25 cmほどの円網を張る。好洞窟性の大形造網性種。

分布： 北海道、本州、四国、九州。主に鍾乳洞などの洞窟に生息しているが、北海道では洞窟以外の類似環境からも記録されている。県内においても、松阪市飯高町の標高1,000 mほどの洞窟類似環境と大台町大杉から記録された。

現況・減少要因： 標高1,000 mほどの溪流上流部で、大岩が折り重なってできた洞窟状地形の入り口から5 mほどで造網している雄雌卵嚢が確認された。生息環境が改変されると生息が不可能になる。新たな生息地が1地点確認された。

保護対策： 生息場所の保全が必要である。また、雄雌卵嚢が確認されたことから、周辺にも洞窟や類似の生息可能環境が存在すると考えられるので、早急な調査が必要である。

文献： 41. 105.



(熊田憲一)

オニグモ

クモ目コガネグモ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Araneus ventricosus (L. Koch, 1878)

選定理由： 広範囲に生息するが、観察事例が急激に減少している。

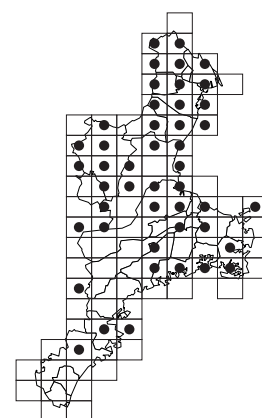
種の概要： 体長は雌30 mm, 雄20 mm前後で個体差がある。黒色または黒褐色の大形種で、広範囲に生息する。毎夕網を張り、朝になると網をたたむ習性があるが、地域により、またクモの成熟度、雌雄、気象環境などにより必ず毎日繰り返すとは限らない。

分布： 北海道、本州、四国、九州、南西諸島。県内ではほぼ全域に生息する。

現況・減少要因： 市街地から郊外にかけて生息するが、郊外の都市化によって、夜間飛来する昆虫類の供給地である田畑や雑木林が遠のいたことが減少要因にあげられる。造網種に大きな影響を与える排気ガス等の大気汚染も影響している可能性がある。

保護対策： 公園の緑地化や里山保全等により、餌となる昆虫類も含めた生態系の維持が必要である。

文献： 1. 3. 4. 8. 9. 12. 14. 15. 21. 22. 26. 29. 30. 33. 34. 35. 37. 39. 42. 44. 45. 47. 49. 53. 56. 60. 63. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 79. 81. 85. 86. 87. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 97. 103. 104. 105. 106. 110. 119. 120.



(武藤茂忠)

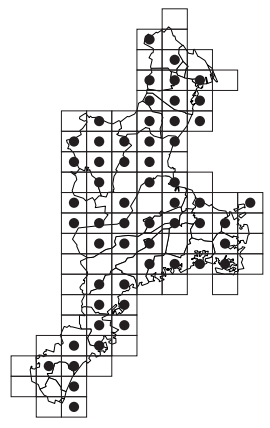
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

コガネグモ クモ目コガネグモ科
Argiope amoena L.Koch, 1878

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 広範囲に分布するが、市街地周辺での減少が著しい。
種の概要： 体長は雌20~30 mm, 雄5 mm位。草や木の枝の間、軒下などに大きな垂直円網を張り、X字形またはその一部を省略したかくれ帯をつけ、脚を2本ずつそろえて中心にとまる。
分布： 本州、四国、九州、南西諸島。県内ではほぼ全域に分布する。
現況・減少要因： 現地調査や聴き取り情報によっても、県内市街地では減少傾向は顕著のようである。交通機関や産業の発達に伴う大気汚染、都市化による餌となる昆虫等の減少は本種のような造網種に大きな影響を及ぼす。
保護対策： 里山、原野等の環境の保全策が望まれる。
文献： 1. 3. 5. 6. 8. 9. 14. 15. 16. 18. 24. 25. 26. 27. 30. 33. 34. 35. 37. 39. 42. 45. 47. 49. 50. 55. 56. 61. 63. 64. 65. 66. 67. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 77. 78. 79. 81. 83. 86. 90. 91. 92. 93. 94. 96. 97. 100. 101. 102. 103. 104. 106. 111. 113. 119. 120.



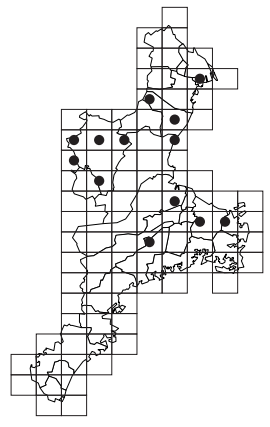
(武藤茂忠)

アワセグモ クモ目アワセグモ科
Selenops bursarius Karsch, 1879

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は10を超えたが、記録個体数は少ない。
種の概要： 体長雌11~13 mm, 雄7~8 mm。体は扁平である。平地から山地に生息し、人家の内外でも見られる。屋内では昼間は天井や壁の隙間にひそみ、夜間歩きまわり、ハエ、カ、ガなどを捕える。
分布： 本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では四日市市、鈴鹿市、津市、伊賀市、名張市、伊勢市、明和町、大紀町で記録されている。
現況・減少要因： 鈴鹿市伊奈富神社で新たに記録された他、伊勢神宮内宮でも新たな生息地が確認された。減少要因としては新建材による家屋の構造の変化や、屋敷林などの減少が考えられる。
保護対策： 屋敷林の復活や鎮守の森の保護などが必要と考えられる。
文献： 8. 26. 27. 31. 42. 45. 66. 86. 93. 112.



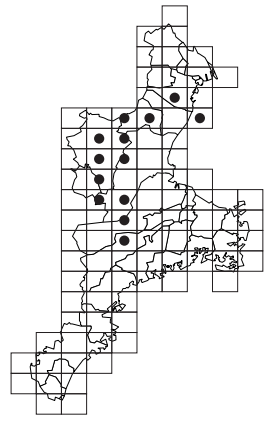
(太田定浩)

アシナガカニグモ クモ目カニグモ科
Heriaeus melloteei Simon, 1886

三重県：準絶滅危惧 (NT)
 旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は10を超えたが、分布が局所的で、記録個体数も少ない。
種の概要： 体長雌6~8 mm, 雄4.5~5 mm。白緑色のクモで体に比べ歩脚が長く、全身白色の長く太い毛で覆われる。草地や山道の草の葉や花の上にいる。造網せず、小昆虫を待ち伏せて捕食する。
分布： 本州、四国、九州で見られる。県内では四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町で記録されている。
現況・減少要因： 草地が主な生息域だが、記録個体数は少ない。もともと採集観察例の少ない種であり、開発等による生息域の減少が心配される。
保護対策： 生息域での自然環境の保全に努め、草地を減少させないように注意が必要である。
文献： 1. 26. 27. 30. 47. 62. 69. 72. 76. 92.



(貝發憲治)

| | | | |
|---|-----------|-------------------------------|------|
| カワベコモリグモ <i>Arctosa kawabe</i> Tanaka, 1985 | クモ目コモリグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|---|-----------|-------------------------------|------|

1市1町と記録が少なかったが、今回2町で確認できたとはいえ、なお情報不足である。(文献：35. 63. 95. 105.)
(太田定浩)

| | | | |
|---|----------|-------------------------------|------|
| ホシヒメグモモドキ <i>Theridula gonygaster</i> (Simon, 1881) | クモ目ヒメグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|---|----------|-------------------------------|------|

4市3町で分布確認。今回の調査では採集できなかったが、ランクの判断には情報不足である。(文献：14. 17. 24. 30. 69. 90. 121.)
(太田定浩)

| | | | |
|--|-----------|-------------------------------|------|
| キジロオヒキグモ <i>Arachnura logio</i> Yaginuma, 1956 | クモ目コガネグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|--|-----------|-------------------------------|------|

3市の5地点と分布確認地点が少なく、最近伊勢神宮宮域で採集されたが情報不足である。(文献：39. 45. 107. 108. 114.)
(太田定浩)

| | | | |
|--|-----------|-------------------------------|------|
| ニシキオニグモ <i>Araneus variegatus</i> Yaginuma, 1960 | クモ目コガネグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|--|-----------|-------------------------------|------|

新たに3市1町で確認され、5市2町での記録となったが、個体数も少なく情報不足である。(文献：42. 57. 74. 77. 102.)
(太田定浩)

| | | | |
|--|-----------|-------------------------------|------|
| ナガイツツグモ <i>Anyphaena ayshides</i> Yaginuma, 1958 | クモ目イツツグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|--|-----------|-------------------------------|------|

今回の調査で3市が加わり7市での確認となったが、情報不足である。(文献：26. 43. 45. 47. 86. 93.)
(太田定浩)

| | | | |
|---|----------|-------------------------------|------|
| オビジガバチグモ <i>Castianeira shaxianensis</i> Gong, 1983 | クモ目ネコグモ科 | 三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD) | 環境省： |
|---|----------|-------------------------------|------|

今回2市で確認され4市1町の確認とはなったが、個体数も少なく情報不足である。(文献：31. 37. 42. 93.)
(太田定浩)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献

1. 橋本理市. 1961. 伊賀の蜘蛛. 三重生物, 11: 47-51.
2. 橋本理市. 1962. 藤原岳クモ採集記 (2). いがざさ, 37: 327-328.
3. 橋本理市. 1963. 伊勢神宮々域のクモ類目録資料. 槌賀先生喜寿祝賀会記念文集, pp. 45-49. 槌賀記念事業会.
4. 橋本理市. 1963. 三重大学平倉演習林のクモ (Ⅲ). *Atypus*, 30: 21-24.
5. 橋本理市. 1963. 蜘蛛類の寄生蜂6種. *ActaArachnologica*, 18(2): 27-29.
6. 橋本理市. 1968. 三重大学平倉演習林の真正クモ類目録. 三重大学農学部演習林報告, 2: 7-12.
7. 橋本理市・貝發憲治・熊田憲一・武藤茂忠・太田定浩・塩崎哲哉. 2012. 三重県宮川水系のクモ類. *しのびぐも*, 39: 40-59.
8. 橋本理市・杉永厚. 1963. 三重県産真正蜘蛛類目録 (予報). 三重生物, 13: 33-40.
9. 橋本理市・杉永厚・太田定浩. 1965. 九鬼の真正蜘蛛類. 三重生物, 15: 46.
10. 畑守有紀. 1995. ワスレナグモの体のサイズについての若干の考察. *蜘蛛*, 28: 17-20.
11. 畑守有紀・新海明・上田俊穂. 1997. クモタケの全国分布調査結果. *Kishidaia*, 72: 40-41.
12. 岩崎和夫. 1976. 蜘蛛類2. 3の造網活動における生態学的調査. 三重大学教育学部卒業論文集.
13. 貝發憲治. 1973. いろいろな棲息場所における真正クモ群集. *しのびぐも*, 1: 7-16.
14. 貝發憲治. 1973. 三重県南部地方の真正蜘蛛類目録. 三重生物, 23: 49-64.
15. 貝發憲治. 1976. 津市及びその周辺のクモ相. *しのびぐも*, 4: 19-31.
16. 貝發憲治. 1977. 伊坂ダムの真正クモ類. 伊坂ダム自然観察会資料.
17. 貝發憲治. 1978. 私のクモ採集記録より. *しのびぐも*, 6: 9-14.
18. 貝發憲治. 1979. 三重県のミカン園・茶園における真正クモ類とその季節的消長. *Atypus*, 74: 29-39.
19. 貝發憲治. 1979. アカマツ人工林におけるクモ相. *しのびぐも*, 7: 10-18.
20. 貝發憲治. 1981. 鷺嶺水穴のクモ. *しのびぐも*, 9: 15-16.
21. 貝發憲治. 1981. クモ採集記録, 少々. *しのびぐも*, 9: 21-24.
22. 貝發憲治. 1982. 神島のクモ. *しのびぐも*, 10: 15-16.
23. 貝發憲治. 1983. シノビグモを求めて. *しのびぐも*, 11: 1-3.
24. 貝發憲治. 1984. 大宮町の真正蜘蛛類 (中間報告). *しのびぐも*, 12: 1-16.
25. 貝發憲治. 1984. クモ採集記録, 少々 (Ⅱ). *しのびぐも*, 12: 17-25.
26. 貝發憲治. 1984. 名張市比奈知地域の真正蜘蛛類. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書, pp. 215-232. 水資源開発公団比奈知ダム建設所.
27. 貝發憲治. 1986. 大宮町の真正クモ類 (Ⅱ). *しのびぐも*, 14: 1-11.
28. 貝發憲治. 1990. 大川親雄氏のクモ標本同定結果 (Ⅲ). *しのびぐも*, 18: 1-8.
29. 貝發憲治. 1993. 大川親雄氏のクモ標本同定結果 (Ⅳ). *しのびぐも*, 21: 12-17.
30. 貝發憲治. 1995. 松阪・飯多地域の真正クモ類. *しのびぐも*, 23: 11-27.
31. 貝發憲治. 1999. 上野市の真正クモ類 (その1: 概要). *しのびぐも*, 27: 11-18.
32. 貝發憲治. 2001. 津市借楽公園にてキシノウエトタテグモの住居を多数確認. *しのびぐも*, 29: 11.
33. 貝發憲治. 2004. 真正クモ類. 上野市史 自然編, pp. 616-644. 上野市, 上野.
34. 貝發憲治. 2011. 海岸のクモ. *しのびぐも*, 38: 28-31.
35. 貝發憲治. 2013. 未同定クモ類標本の同定結果 (その1). *しのびぐも*, 40: 22-30.
36. 貝發憲治・太田定浩. 1984. 昭和59年度採集会の記録. *しのびぐも*, 12: 26-31.
37. 貝發憲治・塩崎哲哉. 2012. 津市自然ガイドブック作成にかかる調査で得られたクモ類. 三重自然誌, 13: 52-61.
38. 金野晋. 1993. 最近採集したクモ数種. *くものいと*, 12: 12.
39. 熊田憲一. 2001. 伊賀町山畑のクモ. *しのびぐも*, 29: 1-5.
40. 熊田憲一. 2001. 三重で採集したクモ追加. *しのびぐも*, 29: 6-7.
41. 熊田憲一. 2001. 三重県に来て初めて採集したサンロウドヨウグモ. *しのびぐも*, 29: 8-9.
42. 熊田憲一. 2001. 三重県で採集したクモ. *Kishidaia*, 81: 83-107.
43. 熊田憲一. 2002. 三重で採集したクモ追加 その2. *しのびぐも*, 30: 41-42.
44. 熊田憲一. 2006. 三重県環境保全事業団調査で採集したクモ. *しのびぐも*, 33: 8-21.
45. 熊田憲一. 2012. 伊勢神宮のクモー神宮宮域動物調査からー. *しのびぐも*, 39: 18-28.
46. 熊田憲一. 2012. 三重県で採集したクモ 追加その3. *しのびぐも*, 39: 29-37.
47. 熊田憲一・熊田理恵・貝發憲治. 2010. 亀山市のクモ類. 亀山市史 自然編, pp. 634-683. 亀山市, 亀山.
48. 熊野の自然を考える会. 2000. すばらしき熊野の自然を後世へ～13年の歩み～. 熊野の自然を考える会パンフレット, 9, 10, 72-74.
49. 前原 晋・桑原雄二・太田定浩. 2012. 岸岡山と加佐登のクモ群集の季節的消長とその比較. 重要生態系地域の自然環境調査報告書:
50. 孫福正. 1961. 自宅でクモをとる. 伊勢の自然, 1(1): 30-34.
51. 孫福正. 1975. 三重県下のキシノウエトタテグモ・キノボリトタテグモ及びワスレナグモの分布について. *しのびぐも*, 3: 3-4.
52. 益田和昌. 2000. 東海地方のホラヒメグモ. *蜘蛛*, 32/33: 25-26.

53. 三重クモ談話会. 1986. 大川親雄氏のクモ標本同定結果 (II). *しのびぐも*, 14: 12-17.
54. 三重クモ談話会. 1987. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 15: 12-19.
55. 三重クモ談話会. 1988. 三重クモ談話会採集会報告 (雨にたたられた多度峡). *しのびぐも*, 16: 11-14.
56. 三重クモ談話会. 1990. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 18: 35-48.
57. 三重クモ談話会. 1991. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 19: 5-12.
58. 三重クモ談話会. 1992. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 20: 25-27.
59. 三重クモ談話会. 1993. 三重県産真正蜘蛛類目録 (V). *しのびぐも*, 21: 18.
60. 三重クモ談話会. 1993. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 21: 22-25.
61. 三重クモ談話会. 1994. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 22: 31-34.
62. 三重クモ談話会. 1996. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 24: 23-35.
63. 三重クモ談話会. 1997. 三重クモ談話会採集会観察報告. *しのびぐも*, 25: 32-40.
64. 三重クモ談話会. 1998. 三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 26: 33-48.
65. 三重クモ談話会. 1999. 三重クモ談話会活動報告. *しのびぐも*, 27: 19-29.
66. 三重クモ談話会. 2000. 三重クモ談話会活動報告. *しのびぐも*, 28: 14-31.
67. 三重クモ談話会. 2001. 三重クモ談話会活動報告. *しのびぐも*, 29: 17-34.
68. 三重クモ談話会. 2002. 三重県嬉野地区の採集記録. *しのびぐも*, 30: 43-59.
69. 三重クモ談話会. 2003. 2003年度活動報告. *しのびぐも*, 31: 13-37.
70. 三重クモ談話会. 2005. 2004年度活動報告. *しのびぐも*, 32: 25-40.
71. 三重クモ談話会. 2006. 2005年度活動報告. *しのびぐも*, 33: 22-37.
72. 三重クモ談話会. 2007. 2006年度活動報告. *しのびぐも*, 34: 23-40.
73. 三重クモ談話会. 2008. 2007年度活動報告. *しのびぐも*, 35: 16-28.
74. 三重クモ談話会. 2009. 2008年度活動報告. *しのびぐも*, 36: 41-51.
75. 三重クモ談話会. 2010. 2009年度活動報告. *しのびぐも*, 37: 17-30.
76. 三重クモ談話会. 2011. 2010年度活動報告. *しのびぐも*, 38: 32-47.
77. 三重クモ談話会. 2013. 2012年度活動報告. *しのびぐも*, 40: 41-65.
78. 三重県. 1998. クモ類. 宮川流域下水道 (宮川処理区) の浄化センター設置に伴う環境影響評価書, pp. 559-561.
79. 武藤茂忠. 2005. 自宅庭のクモ環境. *しのびぐも*, 32: 1-4.
80. 武藤茂忠・太田定浩. 2008. 篠立の風穴の真正クモ類. 第二次篠立の風穴自然科学調査報告書, pp. 71-77. 第二次篠立の風穴自然科学調査会, いなべ.
81. 南島高校生物クラブ. 1975. 南島町における真正クモ類目録 (第一報). *しのびぐも*, 3: 5-8.
82. 西川喜朗. 2002. キノボリトタテグモの採集記録. *くものいと*, 31: 44.
83. 西川喜朗・小林幹夫・伏田正広. 1968. 尾鷲のクモ. 追手門学院高等学部生物部報, 11: 11-12.
84. 緒方清人. 2013. 津市鳥居町と分部のクモ類. *しのびぐも*, 40: 31-36.
85. 緒方清人・貝發憲治. 1986. 昭和61年度三重クモ談話会採集会報告. *しのびぐも*, 14: 18-20.
86. 太田定浩. 1963. 鈴鹿山脈を主とした北勢地方の真正蜘蛛類. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 111-118. 三重県自然科学研究会, 津.
87. 太田定浩. 1981. 秋の採集会. 山川要助さんと笠取山で. *しのびぐも*, 9: 25-30.
88. 太田定浩. 1989. 飯南郡飯高町奥香肌峡のクモ類. *三重生物*, 39: 46-47.
89. 太田定浩・橋本理市・貝發憲治. 1994. 三重県のクモ類. *三重の生物 (三重生物教育会編)*, pp. 269-276. 三重生物教育会, 四日市.
90. 太田定浩・貝發憲治. 1980. 尾鷲地方の真正蜘蛛類相. *しのびぐも*, 8: 16-34.
91. 太田定浩・貝發憲治. 1990. 「四日市市史」のクモ類目録を補う. *しのびぐも*, 18: 11-33.
92. 太田定浩・貝發憲治. 2011. 四日市市のクモ類. *しのびぐも*, 38: 6-27.
93. 太田定浩・貝發憲治・熊田憲一・塩崎哲哉・橋本理一・武藤茂忠. 2008. 鈴鹿市のクモ類. 鈴鹿市の自然. 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 392-427. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
94. 太田定浩・武藤茂忠. 2012. クモ類. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」自然科学調査報告書, pp. 205-214. 菰野町教育委員会, 菰野町.
95. 佐藤 亮・矢代 学. 1994. クモ目. 淀川水系木津川上流 (木津川・名張川) 陸上昆虫類等調査報告書, II 4-5, II 19-20, III-6, IV-6, 16, 27, 37-38, 63-64, 75-76.
96. 下市昇一. 1966. 高旗山及び三田神社に生息する真正クモ類. *白鳳*, 2: 4-14.
97. 新海 明. 1994. 紀伊半島熊野市周辺のクモ. *しのびぐも*, 22: 1-8・蜘蛛, 27: 27-33・くものいと, 16: 1-9・Kishidaia, 69: 53-61.
98. 新海 明. 2007. ワスレナグモの全国分布調査結果. *Kishidaia*, 92: 39-52.
99. 新海 明. 1999. 大内山の「牛乳うどん」とカネコトタテグモ. *和歌山クモの会会報*, 9: 6-8.
100. 塩崎哲哉. 2000. 三重県海山町船越池周辺の真正クモ類. *三重自然誌*, 6: 41-44.
101. 塩崎哲哉. 2002. 三重県熊野市のクモ. *しのびぐも*, 30: 14-30.
102. 塩崎哲哉. 2002. 紀勢町の真正クモ類. *紀勢町史 自然編*, pp. 397-409. 紀勢町, 紀勢.
103. 塩崎哲哉. 2004. 嬉野町のクモ類. *嬉野史 自然編*, pp. 107-112, 394-408. 嬉野町役場総務課嬉野町史編纂室, 嬉野.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
104. 塩崎哲哉. 2007. ちょっとした採集の記録. *しのびぐも*, 34: 14-18.
105. 塩崎哲哉. 2009. 大台ヶ原のクモ類. *三重自然誌*, 12: 44-51.
106. 塩崎哲哉・貝發憲治. 2012. 鳥羽市神島のクモ類. *三重自然誌*, 13: 21-24.
107. 須賀瑛文. 1987. 三重県のトタテグモ類について (I). *しのびぐも*, 15: 5-6.
108. 須賀瑛文. 1987. 三重県のキジロオヒキグモの新産地. *蜘蛛*, 21: 152.
109. 谷川明男. 1994. A Taxonomical Study of the Japanese Spider Hitherto Misidentified with *Argiope keyserlingi* or *A. aetherea*. *Acta Arachnologica*, 43(1): 33-36.
110. 鳥羽高校生物同好会. 1980. 志摩地方の真正クモ類. *しのびぐも*, 8: 1-15.
111. 徳本洋. 2009. 三重県鈴鹿川のクモ. *しのびぐも*, 36: 17-27.
112. 槌賀安平. 1938. 伊勢神宮々域の蜘蛛類. *Acta Arachnologica*, 3(2): 59-64.
113. ウッドピア松阪協同組合. 1997. クモ類. 松阪木材コンビナート造成計画に係る環境影響評価書, pp. 564-569.
114. 八木沼健夫. 1963. 分布資料. *Atypus*, 31: 8.
115. 八木沼健夫. 1965. 分布資料. *Atypus*, 36: 16.
116. 八木沼健夫. 1980. 日本産Nesticus属の研究 (補遺). *追手門学院大学紀要*, 14: 224.
117. 八木沼健夫. 1982. 三重県のおもなクモ数種について. *しのびぐも*, 10: 5-9.
118. 八木沼健夫・新海栄一. 1972. 分布資料. *Atypus*, 58: 44.
119. 四日市高校生物部蜘蛛グループ. 1962. 蜘蛛紹介. *Biology*, 22: 53-57.
120. 四日市高校生物部蜘蛛グループ. 1964. 本年度採集の蜘蛛. *Biology*, 24: 15-18.
121. 吉田 哉. 2001. A revision of the Japanese genera and species of the Subfamily Theridiinae. *Acta Arachnologica*, 50(2): 116.

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD